



# 2022 慶應義塾

## サステナビリティレポート



Keio University  
Tokyo, Japan



慶應義塾は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

## 「人身の安楽」と「人心の高尚」とを求める学塾

— サステナブルな社会を目指す —

「文明とは人の身を安楽にして心を高尚にするを云うなり」—慶應義塾の創立者、福澤諭吉が、その著『文明論之概略』においてこのように「文明」を定義づけた時、彼の眼には確かに19世紀末の西洋で著しく進歩する機械の発明と技術革新が映っていました。「蒸気船車、電信、郵便、印刷」の4つの発明が、西洋における歴史の原動力として人心を一新してきたことを看破した福澤はその限りで、それらの文明の利器の日本への熱心な導入者であったのです。

しかし、福澤はまた、技術や制度は文明の外形や有様に過ぎず、そこに人の心身における「安楽」と「品位」の進歩が伴って初めて文明の世が到来すると述べました。そして、この安楽と品位とは、智(Intellect)と徳(Moral)によって与えられるものであり、文明とは、とどのつまり智・徳の進歩である、と彼は断言します。ただし、人類社会は未だその段階に達していないとする福澤にとって、文明とは常に到達するその先の目標であり理想であったことに注意するべきです。

戦争による世界情勢の混沌、気候変動による災害の増加など、今、世界はめまぐるしく変転しています。サステナブルな社会を目指すためには、変化を柔軟に受け止め、課題を解決するための智と徳の拡充も常に求められています。

かつて「人身の安楽」と「人心の高尚」を目指した福澤が、その門下生に対し、「気品の泉源、智徳の模範」たらんことを求めた学塾の理念と伝統とが、今も変わらず慶應義塾の道標となっているのです。



福澤諭吉



福澤諭吉筆「慶應義塾の目的」(1896(明治29)年)

### 目次

1 理念 | 2 SDG Initiatives at Keio University | 3 塾長メッセージ | 4 Policy(ポリシー) | 5 Environment(環境・資源保護) | 9 DEI(協生環境) | 12 Student Conference(塾生会議) | 14 Keio SDGs News

# SDG Initiatives at Keio University

## 慶應義塾がSDGsへの取り組みで目指すこと

慶應義塾は、創立者福澤諭吉の「実学の精神<sup>※1</sup>」を基盤とし、総合大学としての強みである分野横断的アプローチにより、教育・研究・医療を通じた社会へのさらなる貢献を目指しています。

※1 実証的に真理を解明し問題を解決していく科学的な姿勢が、義塾伝統の「実学の精神」です。

### 慶應義塾におけるSDGs

持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットで採択された17の国際目標(ゴール)です。2030年までに、発展途上国と先進国双方が持続可能でよりよい世界を目指すための普遍的な目標で、「地球上の誰一人取り残さない」を理念として掲げ、貧困、不平等、気候変動、環境問題、平和と繁栄、正義などに関する17の目標と、169のターゲットから構成されています。慶應義塾も、大学病院を有する教育・研究機関として、世界と地域社会に貢献する研究大学として、SDGsに関連する様々な取り組みを行っています。

### 慶應SDGsロゴ



慶應義塾は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



### サステナブルな社会を目指す事業計画

慶應義塾は中期計画2022-2026において、中期的視点を持って実行していくべき重要な項目を取り上げています。そこにはSDGsの目標とする理念とも通底した、環境計画、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)などの実践と慶應義塾における一層の定着を目標とした計画も掲げられています。中期計画をもとにして作成された年次計画のうち、サステナビリティを目指す活動に特化した項目をまとめた年次報告書が「2022 慶應義塾サステナビリティレポート」です。

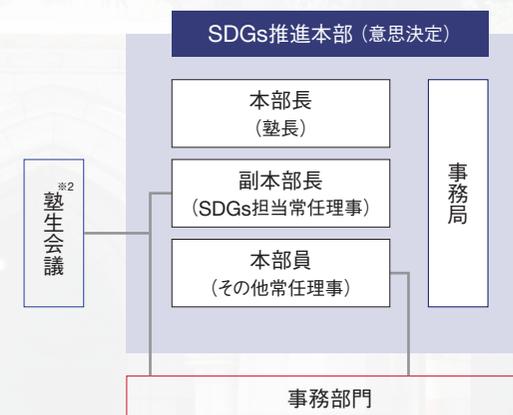
本報告書に示される成果や進捗により、サステナビリティに関わる事業計画の進捗を数値的・定性的に見える化し、

学内において必要な取り組み、今後力を入れるべきことは何かを検証するPDCAサイクルの一環としたいと考えています。また、本報告書を通して、慶應義塾のサステナビリティを目指す取り組みへの理解、協力を得ながら、様々な連携を試み、一朝一夕には解決し得ない地球全体の課題について、取り組んでいきたいと考えています。



中期計画2022-2026

### 慶應義塾のSDGs推進体制



※2 塾生とは、慶應義塾で学ぶ在学生のことを示します。

# Beyond SDGsを見据え、 グローバルな先導者となるために

慶應義塾は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標SDGsに向けて、さらには2030年より先のBeyond SDGsを見据え、これからの日本、世界のために何ができるかを考え、取り組んでいます。

2022年度の、SDGsを目指す大きな第一歩となる取組みとして、まず「塾生会議」の発足があげられます。プロジェクトの発足にあたっては、「慶應義塾のSDGsに塾生の声を反映させること」、「塾生の意識改革を促すこと」を目的とし、塾生にSDGsに向けて慶應義塾が何をすべきかの検討をお願いしました。2022年度は50を超えた提言が塾生から提出されました。

いくつかの提言は、慶應義塾の2030年までの目標として、中期計画に実際に取り入れられました。その他の提言についても、塾生を中心に具体的なアクションに繋げていくことが期待されています。この塾生の大きな力が慶應義塾全体の意識改革につながる契機となることを信じています。

環境保全の取り組みでは、カーボンニュートラルのモデルキャンパスとなる湘南藤沢キャンパスにおいて、自然エネルギーへの転換が進められており、義塾全体の取り組みに広げていくことを目標としています。環境保全への取り組みは、財政的にも計画的に行う必要があり、一朝一夕には解決できないことばかりですが、塾生のアイデアも生かしながら、一つひとつ確実に取り組んでいきたいと考えています。

慶應義塾では、互いの人格を尊重し多様な価値観を認め協力して生きるための環境を構築し、多様性の受容に関する課題に迅速に対処するため、「協生環境推進室」を設置しています。その取り組みのひとつとして、2022年度は女性教員のエンパワメントとリーダーシップの促進を目標に「メンタリング・プログラム」を実施しました。学部を越えた19組のメンターとメンティーがペアとなり、女性のリーダーシップやキャリアについて相談しながら目標を定め、1年間を通じて話し合っています。この活動を通じて、共同研究などの連携も生まれました。このような取り組みを通じて、誰もが活躍できる場を今後も作っていきたく考えています。

地域の皆様とのつながりの中でも、SDGsの活動に取り組んでいます。日吉キャンパスでは、「慶應義塾大学日吉子ども食堂」が開催され、地域の子どもたちと塾生が交流し「食の大切さ」を考える機会となりました。また、全国に位置する学校林「慶應の森」では、一貫教育校(小学校から高等学校)の生徒が、植林活動等を通じて、自然の仕組みや大切さを地域の皆様から学ぶ機会となっています。

2022年度はポストコロナとして、ようやく人と人とのふれあいの中でSDGsの活動が活発に行われはじめました。慶應義塾のSDGs、Beyond SDGsの道はまだはじまったばかりです。今後とも継続して着実に取り組んでいきます。



塾長

伊藤 公平

# 慶應義塾のサステナビリティ・ポリシー

慶應義塾ではサステナビリティを目指す取り組みを推進するため、

「慶應義塾協生環境推進憲章」、「慶應義塾環境理念」を掲げ、それに基づいた各方針を定めています。

また、SDGsのゴール8「働きがいも経済成長も」への取り組みの一環として、採用ページに雇用に関する各方針を掲載しています。

## 慶應義塾 協生環境推進憲章

(2019年9月20日制定)

- 1 自他の尊厳に等しく敬意を払い、互いの人格を尊重し、協力し合う協生社会の実現を目指します。
- 2 多様な価値観への理解を深め、自分らしく生きることへの共感と配慮を育む啓発活動を推進します。
- 3 社会的障壁を取り除くことに努め、個々の選択に応じた生き方を実現できる環境を整備します。

### 男女共同参画基本理念

<https://www.diversity.keio.ac.jp/wlb/philosophy.html>

### ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)の推進に関する基本方針

<https://www.diversity.keio.ac.jp/diversity/policy.html>

### 障害<sup>\*3</sup>のある学生の支援のための基本方針

<https://www.diversity.keio.ac.jp/ease/policy.html>

### ハラスメントについて 慶應義塾の基本方針

<http://www.harass-pco.keio.ac.jp/guideline.html>

### 慶應義塾大学病院 多様性を尊重するための基本方針

<https://www.hosp.keio.ac.jp/about/policy/diversity.html>

### 一般選抜 特別な配慮について

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/special-provision/>

## 慶應義塾 環境理念

(2012年7月6日策定)

慶應義塾は教育・研究・医療における活動において、地球環境の保全と持続可能な循環型社会の発展に貢献します。また、教職員、塾生のひとりひとりが、地球生態系の一員であることの自覚と責任を持って、環境改善活動を推進します。

### 慶應義塾研究倫理要綱

<https://www.research.keio.ac.jp/forms/files/f02-01.pdf>

## 雇用に関する方針

慶應義塾にとって「人」は何よりの財産です。慶應義塾で働く一人ひとりが豊かな人生を送り、それが持続可能であることを目指しています。そのために、職場環境の整備、健康と安全の確保、人材育成、能動的な働きを創出する人事制度や労働慣行に関する取り組みを実施しています。

### 慶應義塾職員採用ページ

<https://www.hrm.keio.ac.jp/docs/index.html>

※3 慶應義塾では、「障害者権利条約」および「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の趣旨にある、「障害は人ではなく社会の側にあり、その「社会的障壁」を取り除くことが、私達の責務である。」という考え方に立つ「社会モデル」を大切に考えています。そのため、「障害」は社会や環境の側にあるということをより意識する観点から「障害」の表記を用いています。

# カーボンニュートラルの取り組み

## 慶應義塾全体のカーボンニュートラルに向けて



慶應義塾は2030年に電気使用量の全てを自然エネルギーに転換することを目指します。

慶應義塾大学には6つのキャンパスがあります。それぞれのキャンパスによってエネルギーの使用量、使用形態、オンサイト太陽光発電のポテンシャルが大きく異なっているため、キャンパスごとの特性に配慮したカーボンニュートラルに向けた具体的な対策を講じていきます。

慶應義塾が現在使用しているエネルギーの全てを、現在の技術に基づいたオンサイトの再生可能エネルギーで賄うことは不可能です。また、日本が掲げる2050年カーボンニュートラルを実現するためには、省エネルギーや再生可能エネルギーに対する技術革新が必要とされます。これらの最先端研究に取り組むとともに、成果を慶應義塾のカーボンニュートラルの施策に反映させます。技術面にとどまらず、カーボンニュートラルに深く関連する環境問題をはじめ、大学が取り組む様々な課題に学生の参画を促すことで、これからの持続可能な社会づくりを担う人材の育成を目指します。

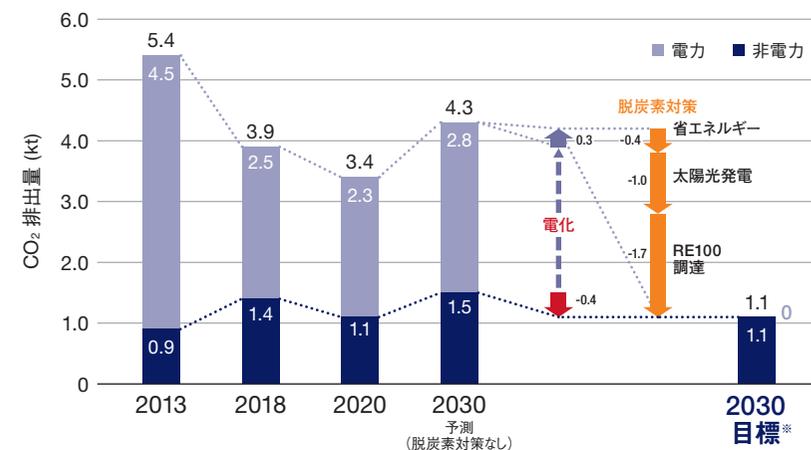
### ▶ 東京電力ホールディングス株式会社との連携協定

慶應義塾は、各キャンパスにおけるカーボンニュートラル化の加速、およびカーボンニュートラル社会の実現に貢献することを目的として、2022年11月8日に東京電力ホールディングス株式会社との連携協定を締結しました。慶應義塾のキャンパスを学生が参画する実証実験の場とすることで、新たな再生可能エネルギーや需給調整技術の実用化を加速することを目指します。また、連携協定は、カーボンニュートラルと深く関係する、環境問題、生物多様性の保全やウエルビーイングなど幅広い分野で社会に貢献する次世代人材の育成も目的としています。慶應義塾の学校林や東京電力が所有する尾瀬国立公園内の土地を、森林のCO<sub>2</sub>吸収量の測定や生物多様性保全を学生が体験する場として活用していきます。

## 湘南藤沢キャンパス (SFC) におけるカーボンニュートラル

湘南藤沢キャンパスでは、慶應義塾全体のカーボンニュートラルに向けたモデルキャンパスとして、自然エネルギー電力への転換を実現するロードマップを作成しました。2030年を目標年として、照明器具のLED化、節電の徹底、建築物の省エネ性能の向上などによる省エネルギー、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入、Renewable Energy 100% (RE100) 電力の調達などによって電気使用量の全てを自然エネルギーに転換します。キャンパスにおけるオンサイト太陽光発電のポテンシャル評価を行った結果、建物の屋上やカーポートの屋根などに太陽光パネルを設置することで、約30%のエネルギーを自給可能であることがわかりました。SFCでは、エネルギー自給率向上のため、地域バイオマス資源の発電利用のポテンシャル調査なども計画しています。また、カーボンニュートラルに関連する生物多様性や資源循環などの環境問題についても統合的に取り組んでいきます。

### SFCのカーボンニュートラルへ向けたロードマップ



※脱炭素化対策は2023年3月時点で想定している内容であり、今後の検討に応じて変更される可能性があります。

# 環境・資源保護の取り組み

## 富士吉田市・慶應義塾連携に関する

### 対話型報告会を開催

2023年3月6日(月)、ふじさんミュージアム(山梨県富士吉田市)の会議室において「富士吉田市・慶應義塾連携に関する対話型報告会」が開催されました。

2022年度は慶應義塾と山梨県、富士吉田市との連携協定が結ばれてから、15年の節目に当たります。その間、地下水の保全と適正利用を進めることを目的として慶應義塾先端科学技術研究センターに委託された調査成果をもとに、以下のような取り組みが行われてきました。

- 年間約9,000万tの良質な地下水の活用の具体化
- ふるさと納税事業の活性化
- 空き家を活用したゲストハウスの開業運営
- 新世界乾杯通りの活性化などの事業成果に代表される若者の移住定住推進と市街地活性化の連動
- NPOかえる舎による地元高校生に対する郷土愛助成事業 など

また、近年では、富士吉田市独自の教職員教務支援システム「あいシステム」の構築や拡張現実を用いた富士山火山ハザードマップの作成など、最先端のICTを活用した連携にも広がっています。



## 「慶應の森」植樹・育林活動

慶應義塾は、東北地方から中国地方までの各所に、16カ所、161.6haの学校林を所有しています。学校林では、福澤育林友の会や慶應義塾を卒業した林業家の皆さんの協力をいただきながら、植樹、伐採、生長調査などの育林活動を行っており、環境などの研究・教育や地域社会への貢献に活用しています。

### ▶ 志木の森ツアー(2022年8月22日~25日、2023年3月6日~9日)

志木高等学校の生徒(夏:19名、春:18名)が参加し、森林の見学、樹高調査、鹿除け網の撤去や枝打ちを中心とした森林整備作業など、様々な森林体験学習を行いました。

### ▶ 修善寺幼稚園の杜植林(2022年3月11日)

6年生の20名が参加し、苗木の植林、鹿による食害を防止する「幼齢木保護チューブ」を被せる作業などの植林活動を行いました。

## 自然エネルギー大学リーグに加盟

湘南藤沢キャンパスは、大学自らが地球温暖化対策に率先して取り組むとともに、持続可能な社会づくりの人材育成を進めることとし、カーボンニュートラルの早期達成を目指して自然エネルギー大学リーグに加盟しました。

自然エネルギー大学リーグは2021年6月に発足した「日本国内の大学において自然エネルギーの活用等を促進することを通じて、大学活動に伴う環境負荷を抑制し、脱炭素化を目指す、大学・学生・企業などのネットワークです」(自然エネルギー大学リーグ Webサイト <https://www.re-u-league.org/> より)

2030年を目標年として、省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの導入など、自然エネルギー100%を達成するための対策を実行するとともに、自然エネルギー大学リーグにおいて、目標を共有する他大学との連携を強化していきます。



## 環境・資源保護の取り組み

### 「気候変動×ものづくり：わたし、あなた、それぞれの描く明日」

#### SDGs ワークショップ&展示会を開催

慶應義塾中等部、慶應義塾ミュージアム・コモンズ(KeMCo)、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート(KGRI)が共催し、SDGsで設定されている17のゴールのなかでも対策が急務となっている、13番目のゴール「気候変動に具体的な対策を」を主題に、ワークショップ(2022年7月21日～28日)と成果展示会(2022年7月29日～30日)を実施しました。

展示会では、義塾の大学(院)生、高校生、そして中等部生が協働し、会場を海・森に見立て、校内で排出されたゴミなどを活用してワークショップで制作した作品を展示しました。

“生命を育む母なる海には、今この瞬間もゴミが流れ込んでいる” そんな海の現状をものづくりで表現し、気候変動の要因を問いかけ、未来への警鐘を鳴らしました。

また、成長する森をものづくりで表現し、危機的な気候変動からの回復を呼びかけ、未来を変える行動を発信しました。



### チャット機能を活用し、廃棄物の減少・再利用を促進

理工学部・理工学研究科のある矢上キャンパスでは、不要となった教育・研究に関わる物品や備品などの引き取り先を募集する、チャット機能のチャンネル「reuse」を活用し、廃棄物の減少・再利用を促進しています。

また、義塾全体の計画に基づき、建物の共用照明LED化推進による消費電力の節減に取り組んでいます。



### 「ゴミを生き返らせるアイデア」に出会えるワークショップを開催

2022年7月3日、システムデザイン・マネジメント研究科において、「あなたが実践できる！『ゴミを生き返らせるアイデア』」に出会えるワークショップ～身の回りのゴミを再使用・再生利用する方法をみんなで考えよう～」がオンライン形式で開催されました。不法投棄のゴミが海に流れ出すことによる海洋汚染問題、ゴミを処理する税金費用、焼却時やゴミ収集車が走る際の二酸化炭素の排出による地球温暖化の進行など、様々な影響を及ぼすゴミ問題に対し、私たちにできることは何かを考え、議論を深める機会となりました。



### エレベーターを使わず階段利用で節電を目指す

慶應義塾大学病院では、一人ひとりの節電意識を高め、小さいことでもできることを確実に行うことを目標としています。エレベーターの利用は、患者さんや搬送業者を優先し、スタッフは、上りは2フロア、下りは全て階段を利用することが推奨され、取り組んでいます。SDGsのゴール7を目指し環境保全につながるだけでなく、スタッフの健康管理にも役立っています。



Environment 環境・資源保護

DATA | 環境負荷データ



直近一年の変化 | 評価 😊



直近一年の変化 | 評価 😊



直近一年の変化 | 評価 😞



直近一年の変化 | 評価 😞

### 各キャンパスの環境負荷データ (2022年度)



項目	三田	日吉	信濃町	矢上	湘南藤沢	芝共立	一貫教育校
CO <sub>2</sub> 排出量 (CO <sub>2</sub> -t)	5,308	9,924	30,645	9,847	3,635	2,245	2,467
エネルギー使用量 (GJ)	96,875	182,141	567,696	176,216	67,778	40,290	44,534
電気使用量 (千kWh)	7,755	13,424	40,661	16,035	4,604	3,599	3,657
ガス使用量 (千m <sup>3</sup> )	471	1,136	3,797	438	508	115	196
水道使用量 (千m <sup>3</sup> )	44	192	313	64	40	15	51
廃棄物発生量 (t)	191	729.9	1896.9	280.3	160.7	159.1	—
廃棄物再利用率	62.4%	37.9%	74.0%	38.8%	21.3%	31.9%	—

# 協生環境

## 協生環境推進室



慶應義塾は、教職員・学生・生徒・児童が、互いの人格を尊重し、多様な価値観を認め協力して生きるための環境の構築と多様性の受容に関する課題に迅速に対処するため、2018年4月1日に「協生環境推進室」を設置しました。また、2019年9月には「慶應義塾協生環境推進憲章」を制定し、「年齢・性別・SOGI(性的指向・性自認)・障害・文化・国籍・人種・信条・ライフスタイルなど、様々な背景を有する人々が、誰一人として社会から孤立したり排除されたりすることなく、互いの尊厳を尊重し合う社会」の実現を宣言し、様々な背景をもつ人々が互いに尊重・協力しあう協生社会の実現を目指しています。この宣言の実現に向け、協生環境推進室では、多様な価値観を共有・発信するプラットフォームを基盤に、慶應義塾がこれまで培ってきた知見を共有しながら、ワーク・ライフ・バランス、バリアフリー、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)の事業推進やこれらの理念を尊重する環境や制度の整備など、一貫教育校から大学・大学院、大学病院までを包含した全塾的な取り組みを推進しています。

### 「独立自尊」・「他尊」のキャンパスを目指して

〔 私たちが考える協生環境とは 〕

異なる価値観に敬意を払い、互いの尊厳を認め合いながら、社会的固定観念と心身の制約を乗り越え、一人ひとりが自分の選択に応じた生き方を実現できる社会

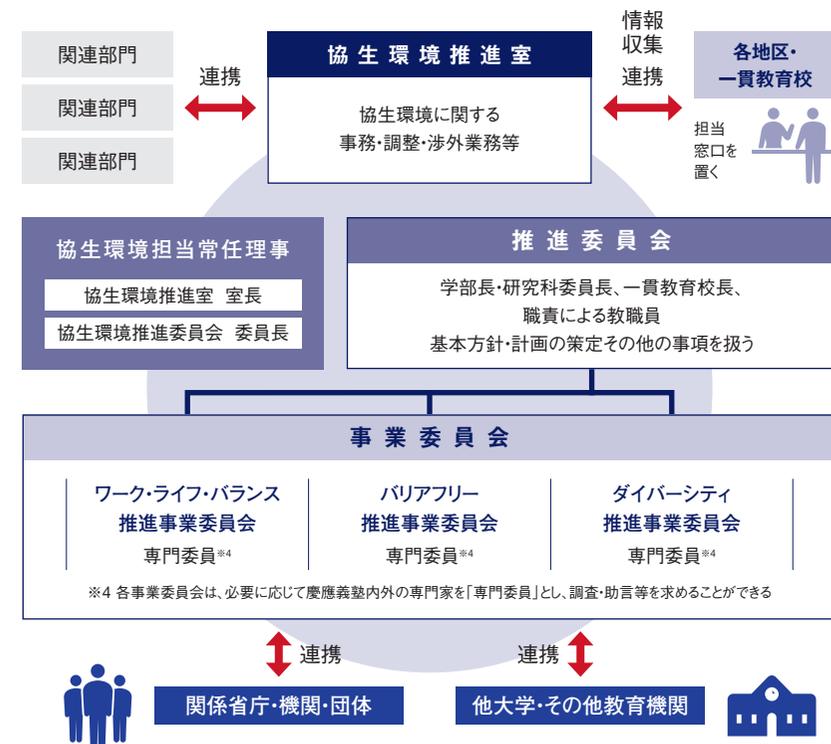
〔 協生環境に込められたメッセージ 〕

異なる価値観への理解、互いの人格を尊重する姿勢、そして何より自分らしく生きることへの共感と配慮

ダイバーシティを受容・推進できる組織こそ発展・成長できる

## 体制図

協生環境推進室は、担当常任理事の下に推進委員会を設け、その下で3つの事業委員会が活動を行っています。



協生環境推進室Webサイト

<https://www.diversity.keio.ac.jp/index.html>



## 2022年度 | 協生環境の取り組み

### 「女性教員メンタリング・プログラム」導入

慶應義塾における「女性リーダー」は、「義塾の運営を担う立場に立ち、改革を推進する未来の先導者である」という考えのもと、女性教員のエンパワメントとリーダーシップを後押しするメンタリング・プログラムを導入しました。2022年度に実施したパイロット版には、学部の垣根を超えて19組のメンターとメンティーのペア合計38名が参加し、修了証が授与されました。

本プログラムは、慶應義塾も加盟している環太平洋大学協会(APRU)のAsia-Pacific Women in Leadership (APWIL) Mentoring Programの特徴やノウハウを取り入れ、メンターとメンティーが双方に学び、教え合う、慶應義塾の草創期からの精神のひとつである「半学半教」の実践を目指したものです。



### 「女性のからだ支援

#### ～Breezeプロジェクト～実施

「女性活躍・男女共同参画の重点方針」、「すべての女性が輝く社会づくり」といった目標を掲げ、女性が様々な場面で活躍することが期待されています。女性が心身ともに「軽やかに」学び、働き、活躍することができるように、「Breezeプロジェクト」という女性のからだ支援を立ち上げました。この取り組みによって、ジェンダーギャップの是正に寄与していきます。



#### 実施している取り組み

- 生理用ナプキン無料提供  
ディスペンサー設置
- 生理用品無料配付
- 女性のからだ・  
男性のからだ相談会
- 「からだ支援」  
講演会・座談会

など



### 「障害学生支援室」開設

障害のある学生の修学機会を保障する全学的なバックアップ体制を整え、さらなる支援の充実を図るため、「障害学生支援室」を開設し、「障害学生支援@easeプロジェクト」を開始しました。

このプロジェクトには、教職員だけでなく「@easeサポーター」と呼ばれる専門の研修を受けた学生も参加し、障害のある学生の支援やバリアフリーに関する活動をしています。



車椅子による移動助の実習

# | DATA | 女性が占める割合



直近一年の変化 | 評価 😊



直近一年の変化 | 評価 😊



直近一年の変化 | 評価 😞



直近一年の変化 | 評価 😊



直近一年の変化 | 評価 😊

# 塾生会議

## 塾生会議



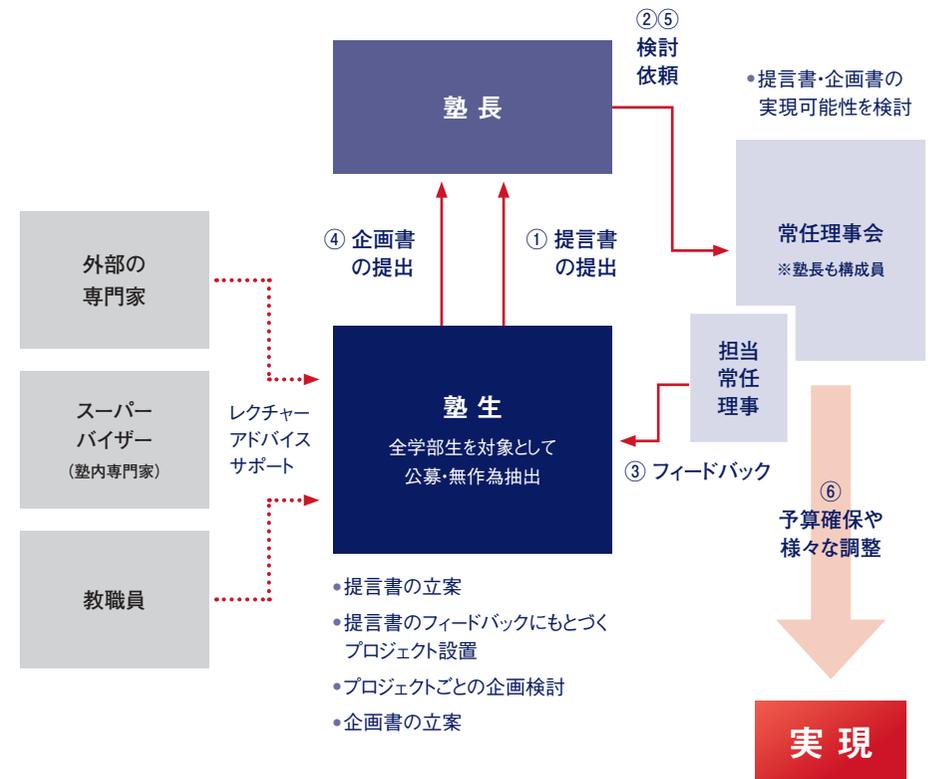
「塾生会議」は、フランスやイギリスで行われている気候変動対策や温室効果削減対策を国民の側から提言する会議にヒントを得て、慶應義塾SDGsの一環として、学生の意見を本学のSDGsの取り組みに反映させるために発足しました。

大学の全学部から公募と無作為抽出で選抜された塾生約120名が、専門家のアドバイスを受けながらディスカッションを重ね、SDGsを実現するための慶應義塾のビジョン・目標・ターゲットを提言することを目的として、2022年6月から活動を開始しました。

2022年度は、6月から7月にかけてはSDGsをめぐる世界と日本の現状について専門家から学び、10月から12月にかけて、主に分科会に分かれてディスカッションを行い、2023年1月に最終提言を行いました。



## 体制図



## 2022年度 | 塾生会議の活動

### 「慶應義塾SDGs会議 – 2022 サマー・キャンプ」開催

2022年8月31日に、日吉キャンパスにおいて、SDGs達成に向けて慶應義塾が掲げるべき目標・ターゲットなどを考える「慶應義塾SDGs会議–2022 サマー・キャンプ」が開催されました。

サマー・キャンプには、塾生会議のメンバーに加え、メンバー以外の大学生の希望者と、慶應義塾の一貫教育校10校の児童・生徒からも参加がありました。総勢約100名が集まり、SDGsが掲げる17のゴールに沿って慶應義塾の目指す姿を話し合いました。

当日は伊藤公平塾長のほか、塾生会議のスーパーバイザーを務める政策・メディア研究科 蟹江憲史教授と同研究科 国谷裕子特任教授(2022年度時点)も出席し、参加者の発表に専門の見地からコメントしました。会場では幅広い年代の参加者が一緒になって議論し、どんな未来を目指したいのか、そのために取り組むべき課題とは何かについて、活発な意見が交わされました。



### 2022年度最終提言

2023年1月11日に、2022塾生会議が取りまとめた最終提言の発表会が行われ、17のゴールに向けた提言が塾長に提出されました。慶應義塾が抱える課題、地域や日本、世界の問題に対して、慶應義塾が取り組むべきアクションを様々な角度から具体的に論じた提言が発表され、講評では伊藤公平塾長と参加学生の間でさらに踏み込んだ意見交換もなされました。今回提出された提言は塾長を中心に検討議論され、慶應義塾の取り組みや、次年度の塾生会議の活動につなげています。

2022年度  
最終提言より  
実際に  
取り入れられたもの

- ウォーターサーバーの各キャンパスへの試行設置
- 慶應義塾中期計画に以下の目標を追加
  - ▶ 「誰にとっても安心できる環境を構築する」
  - ▶ 「再生可能エネルギー導入等の施設整備と廃棄物排出量の低減等による省資源・省エネルギーの取り組みによって環境負荷低減・脱炭素社会へ貢献する」



## Keio SDGs News

女性のからだセミナー  
「女性のからだとライフプラン」開催



伊藤塾長 RU11を代表して  
「Leiden Principles(ライデン原則)」に署名



塾生会議ガイダンス 実施

港北オンラインラジオ体操 2022 夏 開催  
藤沢オンラインラジオ体操 2022 夏 開催



慶應義塾 SDGs会議  
—2022サマー・キャンプ—開催

日本国内で司法試験  
最終合格者数第3位、  
最終合格率第4位



2022年  
4月

5月

6月

7月

8月

9月

## Pickup

| 6月 |

THE Impact Rankings 2022に慶應義塾大学が  
SDGs6つのゴールで世界100位以内にランクイン



国際連合が提唱するSDGsの達成度により社会に対する大学の貢献度(インパクト)を測定することを目的とした世界大学ランキングTHE Impact Rankings 2022において、慶應義塾大学は6つのゴールで、世界100位以内の順位を獲得しました。4回目となる2022版には、世界106の国や地域から1,406機関(大学)が参加しました。

1 貧困をなくそう	貧困をなくそう	49位	15 陸の豊かさも守ろう	陸の豊かさも守ろう	98位
6 安全な水とトイレを世界中に	安全な水とトイレを世界中に	41位	16 平和と公正をすべての人に	平和と公正をすべての人に	16位
11 住み続けられるまちづくりを	住み続けられるまちづくりを	87位	17 パートナースhipで目標を達成しよう	パートナーシップで目標を達成しよう	94位

| 7月6~9日 |

伊藤塾長 APRU Annual  
President Meeting に参加



シンガポールにおいて開催されたAPRU (The Association of Pacific Rim Universities:環太平洋大学協会) Annual President Meeting (APM: 年次学長会議)に伊藤塾長が参加し、「Reconnecting in a Sustainable World and the Mission of Keio University」と題したスピーチを行いました。



| 9月 |

ウクライナ避難学生  
受け入れ開始



全社会の先導者を目指すに  
あたっての重要課題の一つ  
として掲げている、「誰も取り残  
されないキャンパス」の実現のための環境整備を、グ  
ローバルなステージに広げるために、学びの権利を  
奪われたウクライナの学生に一時的にでも学びの場  
を提供することが使命であると考え、「ウクライナ避  
難学生学びの継続支援特別プログラム」を設置しま  
した。他大学で受け入れの少ない大学院生を対象と  
し、4名の学生を受け入れました。



## Keio SDGs News



| 12月17日 |

### 慶應義塾大学日吉 子ども食堂 開催



「食べるってなんだろう? 慶應生と  
カレーを食べて考えよう!」と題して、地  
域の子どもたちと大学生と一緒にクイ  
ズや食事を楽しみながら、食べ物のこと、  
SDGsについての理解を深めました。

| 2月16日 |

### チャバ・コロシ 第77回 国連総会議長来塾 シンポジウム「折り返し地点に立ち: SDGs 達成プロセスの加速へ向けて」開催



2014年の「国連:SDGsに関するオープンワ  
キンググループ」の共同議長を務め、2015年9  
月の国連サミットで「持続可能な開発のための  
2030アジェンダ」を加盟国による全会一致の  
採択に導いた立役者であるチャバ・コロシ第77  
回国連総会議長を招き、塾生との質疑応答を  
含めたシンポジウムを開催しました。

| 2月26日 |

### 「KEIO SPORTS SDGs シンポジウム2023 ～多分野連携で進める スポーツ・身体活動～」開催



日本と世界の身体活  
動の現状を共有すると  
ともに、2030年の持  
続可能な行動目標(SDGs)、さらにその先に向  
けて、塾内外のステークホルダーと、今後行う  
べきことを考えるシンポジウムを開催しました。



| 3月16～17日 |

### 「第5回U7+ アライアンス学長会議」主催 G7首脳に平和と安全保障のための 教育投資の優先を提言



「ペンは剣よりも強し:平和  
と安全保障のためのイノ  
ベーションを促すエンジンと  
しての大学」をテーマに、  
「U7+アライアンス」の学  
長などが慶應義塾大学に集い、第5回年次  
総会を開催しました。世界各地で起きてい  
る紛争が、若い世代の教育の機会、学問の自由、  
言論の自由を奪っている現状を懸念し、「U7  
+アライアンス東京声明」をまとめました。

